

2019年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告 I

2019年度韓国社会福祉学会春季学術大会に参加して

村田 文世
日本社会事業大学

2019年4月26日～27日、ソウル神学大学校で開催された韓国社会福祉学会春季学術大会に参加し、「社会福祉法人のThird Party Government化に伴うアカウンタビリティの拡大と“公益的取組み”の法制化」と題した口述発表を行って参りました。

韓国の社会福祉に関しては、日本と類似した“社会福祉法人”制度をはじめ、社会的企業に代表される日本に先駆けた新しいサービス組織の台頭など、国を挙げた民間組織の育成に長らく興味を持っておりました。そうしたなか、市場化における社会福祉法人の役割拡大や社会福祉法人制度改革に関する発表の場を頂き、日本の社会福祉の最新動向を紹介する意味からも、まさに念願叶った機会となりました。

発表準備においては、事前の提出資料から発表用パワーポイント資料等の翻訳サービス、当日の通訳の先生の手配まで、日本社会福祉学会及び韓国社会福祉学会から、丁寧かつ正確なバックアップを得ることができ、お蔭で発表内容の精査に余裕を持って専念できました。

また発表当日は、各発表者に一人ずつ担当コメンテーターが就き、より専門的な観点からコメントを頂いたり、コーディネーターからの総括、フロアーの参加者との質疑応答を通して、有意義な意見交換をすることができました。論点となった、「官から民」の流れが既定路線化するなかで、政府によるヒト・モノ・カネを通じた支援のあり方や、民間組織における規模や活動面の格差の出現など、市場化の過程で公・民関係や民・民関係に生じる課題は、世界規模の普遍的テーマであることを実感しました。あらためて、日本の社会福祉の現状を俯瞰的に捉えることができ、国際学術交流の醍醐味を味わった有意義な機会となりました。参加を通して得られた示唆や先生方との出会いを、今後の研究活動に活かして参る所存です。

最後になりましたが、この度の学会参加に際してご助力を賜りました、日本社会福祉学会、韓国社会福祉学会の諸先生方、事務局の皆さまに、心より感謝の意を申し上げます。